

2. 日本語教育部門

日本語研修コース報告（2011年4月～2012年3月）

後藤寛樹

1 はじめに

大学院入学前予備教育日本語研修コースは、主として、文部科学省によって配置される大使館推薦国費研究留学生および教員研修留学生を対象とした日本語集中コースで、毎年4月と10月に開講し、各期15週間75日のコースを提供している。富山大学留学生センターでは、1999年10月に第1期を開講し、2012年3月には第25期生を送り出した。富山大学に配置される国費研究留学生・教員研修留学生の数は少なく、受講定員に余裕があるため、2000年10月開講の第3期日本語研修コースからは、学内公募を実施して、大学推薦国費研究留学生や私費研究生等も受け入れている。本稿では、2011年4月から開講した第24期と同年10月から開講した第25期について報告する。

2 受講者

第24期は、文部科学省によって配置された国費研究留学生1人、学内公募による私費留学生2人が受講・修了した。第25期は、文部科学省によって配置された国費教員研修留学生3人、学内公募による私費大学院生・研究生2人が受講・修了した。受講・修了者は表1の通りである。

表1 日本語研修コース受講・修了者（第24期・第25期）

期	名前	国籍	指導教員
23	ラファエル プレタス ヴィエイラ	ブラジル	富山大学 西条 寿夫 教授
	ヴ ハイ ニン	ベトナム	富山大学 金 奉吉 教授
	虞 瑩 (グ エイ)	中国	富山大学 清家 彰敏 教授
24	アド エリック コフィ	ガーナ	富山大学 岡崎 浩幸 准教授
	ラウリス ミケンス	ラトビア	富山大学 橋爪 和夫 教授
	ヒルファトゥル ジャンナ	インドネシア	富山大学 野平 慎二 教授
	李 鯤 (リ コン)	中国	富山大学 唐 政 教授
	曹 鑫 (ソウ シン)	中国	富山大学 本間 哲志 教授

3 コース担当者

第24期、第25期ともに、センター専任教員5人（出原節子、加藤扶久美、後藤寛樹、副島健治、濱田美和）と、非常勤講師7人（加藤敬子、高島智美、中河和子、永山香織、藤田佐和子、松岡裕見子、横堀慶子）が授業を担当し、後藤寛樹がコースのコーディネートを行った。

4 コーススケジュール

第24期は、2011年4月8日（金）に開講式、同年9月29日（木）に修了式を、第25期は、2011年10月7日（金）に開講式、2012年3月1日（木）に修了式を行い、どちらの期も15週間75日の集中授業を行った。各期の主なスケジュールは以下の通りである。

<第24期>

2011年 4月6日(水)	文科省配置学生：諸手続き, オリエンテーション, ひらがな 学内公募選考
4月7日(木)	学内公募受講生：オリエンテーション
4月8日(金)	開講式
4月11日(月)	授業開始
5月25日(水)	異文化交流パーティー
6月17日(金)	「私の国」発表会
6月24日(金)	フィールドトリップ(富山市民俗民芸村)
7月16日(土)	ホームビジット
7月29日(金)	授業終了
8月1日(月)～9日(火)	スピーチ練習, 文集作成
8月10日(水)	スピーチ発表会(「私の専門」発表会)
9月29日(木)	修了式

<第25期>

2011年 10月4日(火)	文科省配置学生：諸手続き, ひらがな
10月5日(水)	文科省配置学生：オリエンテーション
10月6日(木)	学内公募選考
10月7日(金)	開講式, 学内公募受講生：オリエンテーション
10月11日(火)	授業開始
11月11日(金)	フィールドトリップ(高岡市瑞龍寺ほか)
11月16日(水)	異文化交流パーティー
12月20日(火)	「私の国」発表会
12月22日(木)～2012年1月4日(水)	冬季休業
2012年 1月21日(土)	ホームビジット
2月10日(金)	授業終了
2月13日(月)～20日(月)	スピーチ練習, 文集作成
2月21日(火)	スピーチ発表会(「私の専門」発表会)
3月1日(木)	修了式

5 コース内容

授業は月曜日から金曜日まで1日4コマで、日本語と日本事情、コンピュータを中心とした内容で行った(表2, 3参照)。初級クラスの「文法」10コマ中8コマと「語彙・表現」「聴解」「文字・漢字」「会話」各1コマの合計12コマ、および、中級クラスの午前中の10コマ(「文法」8コマ, 「聴解」「会話」各1コマ)は日本語課外補講の授業と合同で開講される授業である。通常の授業の他に、学生の個人の習熟度やニーズに合わせた指導を行うために、特別指導も行った。コース後半からは、専門課程への橋渡しの教育として、自分の専門についての口頭発表とレポート作成を行う「私の専門」プロジェクトも課した。

第24期は、日本語研修コースには中級レベルの受講者がおらず、初級レベルの受講者のみであったため、午前中は初級1クラスで授業を行ったが、午後の技能別クラスは、母国あるいは日本で一定の期間日本語を学んだことがある学生と学習歴がほとんどない学生とに分けて授業を行った。また、文字・漢字のクラスは漢字圏出身者と非漢字圏出身者とに分けて授業を行った。第25期は、受講者を日本語

能力に応じて初級と中級の2つのレベルに分けて授業を行った。また、コース開講途中で受講者の1人が交通事故に遭い、約2週間入院することになったが、退院後の約2週間、日本語教育部門の教員が手分けをしてクラスに復帰するための特別補習や通院の付き添い等に当たった。

5.1 時間割

表2 第24期日本語研修コース時間割

	1 (8:45 ~ 10:15)		2 (10:30 ~ 12:00)		3 (13:00 ~ 14:30)		4 (14:45 ~ 16:15)	
	初級	中級	初級	中級	初級	中級	初級	中級
月	文法 (加藤敬)	文法A (高島)	文法 (加藤敬)	文法A (高島)	語彙・表現 (加藤扶)	コンピュータ (濱田)	コンピュータ (濱田)	語彙・表現 (加藤扶)
火	文法 (後藤)	聴解 (濱田)	文法 (後藤)	会話 (副島)	聴解 (濱田)	聴解 (藤田)	特別指導 (加藤扶・副島)	コンピュータ (後藤)
水	文法 (横堀)	文法A (中河)	文法 (横堀)	文法A (中河)	文字・漢字 (加藤扶)	文字・漢字 (濱田)	日本事情 (出原)	
木	文法 (高島)	文法B (副島)	文法 (高島)	文法B (副島)	読解・作文 (横堀)	特別指導 (濱田・後藤)	コンピュータ (後藤)	読解・作文 (副島)
金	文法 (永山)	文法B (松岡)	文法 (永山)	文法B (松岡)	会話 (後藤)	会話 (副島)	特別指導 (濱田・後藤)	特別指導 (加藤扶・副島)

※網かけのクラスは日本語課外補講と合同で開講されるクラスである。

※日本語研修コースの受講者で中級クラスの午前の授業を受講したものはいなかった。

表3 第25期日本語研修コース時間割

	1 (8:45 ~ 10:15)		2 (10:30 ~ 12:00)		3 (13:00 ~ 14:30)		4 (14:45 ~ 16:15)	
	初級	中級	初級	中級	初級	中級	初級	中級
月	文法 (加藤敬)	文法A (高島)	文法 (加藤敬)	文法A (高島)	聴解 (加藤扶)	コンピュータ (濱田)	コンピュータ (濱田)	文法C (加藤扶)
火	文法 (後藤)	聴解 (加藤扶)	文法 (後藤)	会話 (副島)	語彙・表現 (藤田)	作文 (加藤扶)	特別指導 (加藤扶・副島)	特別指導 (濱田・後藤)
水	文法 (横堀)	文法A (中河)	文法 (横堀)	文法A (中河)	文字・漢字 (加藤扶)	文字・漢字 (濱田)	日本事情 (出原)	
木	文法 (高島)	文法B (副島)	文法 (高島)	文法B (副島)	読解・作文 (横堀)	コンピュータ (後藤)	コンピュータ (後藤)	文法C (副島)
金	文法 (永山)	文法B (松岡)	文法 (永山)	文法B (松岡)	会話 (後藤)	読解 (副島)	特別指導 (濱田・後藤)	特別指導 (加藤扶・副島)

※網かけのクラスは日本語課外補講と合同で開講されるクラスである。

5.2 日本語科目

初級クラスでは、基本的な日本語文法を習得し、運用できるようになること、文字についてもひらがなやカタカナ、基本的な漢字を習得することを目的として授業を行った。

中級クラスでは、これまでに身につけた文法や語彙の知識をもとに、中級レベルの文法や語彙を習得し、運用力をつけることを目指して授業を行った。午後の「文法C」の時間には、文法事項の復習と定着の確認を行った。

また、どちらのクラスでも、独自開発教材を用いて、正しい日本語の発音を身に付けるための指導も行った。

[使用テキスト] (主なもののみ)

<初級クラス>

- 文 法 『みんなの日本語初級 I, II』(スリーエーネットワーク)
『みんなの日本語初級 I, II 書いて覚える文型練習帳』(スリーエーネットワーク)
『毎日の発音練習』(独自開発テキスト)
- 聴 解 『みんなの日本語初級 I, II 聴解タスク 25』(スリーエーネットワーク)
『わくわく文法リスニング 99』(凡人社)
『絵とタスクで学ぶにほんご』(凡人社)
『にほんごきいてはなして』(ジャパントイムズ)
『楽しく聞こう』(凡人社)
『日本語生中継』初中級編 1 (くろしお出版) (第 24 期)
- 語彙・表現 『みんなの日本語初級 I, II』(スリーエーネットワーク)
- 読解・作文 『みんなの日本語初級 I, II 初級で読めるトピック 25』(スリーエーネットワーク)
『みんなの日本語初級 やさしい作文』(スリーエーネットワーク)
『楽しく読もう』(凡人社)
- 文字・漢字 『ストーリーで覚える漢字 300』(くろしお出版)
『漢字系学習者のための 漢字から学ぶ語彙』1, 2 (アルク) (第 24 期)
- 会 話 『クラス活動集 101』『クラス活動集 131』(スリーエーネットワーク)
『楽しく話そう』(凡人社)
『にほんごきいてはなして』(ジャパントイムズ)
『聞く・考える・話す 留学生のための初級にほんご会話』
(スリーエーネットワーク) (第 24 期)

<中級クラス> (第 25 期のみ該当)

- 文 法 A 『J. Bridge』(凡人社)
- 文 法 B 『日本語中級 J301』『日本語中級 J501』(スリーエーネットワーク)
- 文 法 C 『みんなの日本語初級 I, II』(スリーエーネットワーク)
『みんなの日本語初級 I, II 書いて覚える文型練習帳』(スリーエーネットワーク)
『初級日本語文法総まとめポイント 20』(スリーエーネットワーク)
『中級日本語文法要点整理ポイント 20』(スリーエーネットワーク)
『毎日の発音練習』(独自開発テキスト)
- 聴 解 『新・毎日の聞き取り 50 日』上・下 (凡人社)
『毎日の聞き取り plus40』上・下 (凡人社)
- 会 話 『日本語中級 J301』『日本語中級 J501』(スリーエーネットワーク)
- 文字・漢字 『Intermediate Kanji Book』Vol.1 (凡人社)
- 読 解 『日本語の表現技術 読解と作文 中級』(古今書院)
- 作 文 『みんなの日本語初級 やさしい作文』(スリーエーネットワーク)

5.3 日本事情

学内から国際交流学生ボランティアとして募集した日本人学生との交流・活動を通して、日本社会について学び、さらには習得した日本語を実際に使う機会を提供する。

また、留学生と日本人学生が共に自国の言語や文化に対する関心を高め、異文化を理解し、異文化コミュニケーション能力を養うことを目指す。

5.4 コンピュータ

この授業では、留学生が日本語環境でコンピュータの基本的な操作をすることができ、ひらがなやカタカナ、さらに漢字なども使って、正しい日本語の入力ができるようになることを目指す。また、あわせて、大学での勉学に必要な基本的な情報リテラシーの習得も目指している。

日本語のコンピュータ用語には漢字語やカタカナ語が多いために難解であったり、入力においても促音や拗音といった特殊音の入力が難しいなど、外国人が日本語環境のコンピュータを用いる際に特有な問題があるが、この授業ではそれを克服できるように指導することが大きな目的である。また、専門課程での勉学に備えて、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトなどを使えるようになることも目指し、同時に日本語での電子メールの書き方、インターネットの使い方、およびそれに付随する著作権やセキュリティ対策などについても指導を行った。

[使用テキスト] 『日本語でできる！外国人のためのパソコンのきほん』（スリーエーネットワーク）

5.5 口頭発表プロジェクト

5.5.1 口頭発表プロジェクト

日本語研修コースに在籍する留学生は、そのほとんどが大学院へ進学する予定の学生であり、コースが始まって半年後にはそれぞれの専門課程に進んで専門の勉強や研究を始めなければならない。教員研修留学生についても、このコースが終わると、教育に関するさまざまな授業を日本語で受けなければならないし、授業見学を通じて現場の教員とのやりとりが必要となる場面も多い。本コースでは、留学生が日本の大学院での研究活動を効率的に進められるように、スピーチ発表会で自分の専門の内容を簡単に説明する口頭発表を行い、さらにレポートにまとめるというプロジェクトを学生に課している。学生それぞれの留学目的に合わせて、大学院進学予定の学生はこれまで自国で研究してきた内容と富山大学で研究したい内容について、教員研修留学生は自国の教育制度の説明と富山大学で学びたい内容について、それぞれ原稿とスライドを作成し、スピーチ発表会で発表し、レポートにまとめるというプロジェクトである。この活動は、一般日本語、コンピュータ、そして専門の学習が一体となって行われるものである。

具体的には、留学生は自分の専門について、専門用語を調べたり、必要な情報をインターネットなどから得たり、あるいは必要に応じて所属研究室の指導教員や学生に質問したりした上で、作文の時間に発表原稿を作成し、コンピュータの時間にプレゼンテーションソフトを使用してスライドを準備した。その後練習を重ね、最終的には、コース修了前に開催されるスピーチ発表会で、作成したスライドを示しながらプレゼンテーションを行った(5.5.2参照)。さらに、学生は発表原稿をもとにしてレポートを作成した。学生の作成したレポートは、第24期、第25期のものをまとめ、日本語研修コース修了レポート集『らいちょう』として発行した(5.5.3参照)。

5.5.2 スピーチ発表会

スピーチ発表会は、第24期は2011年8月10日(水)に、第25期は2012年2月21日(火)に、それぞれ午後1時半より開催した。第24期は29人、第25期は26人の出席者があった。出席者は学生の指導教員やセンターに関係のある教員、学務部学生支援グループ留学支援チーム職員、富山大学の留学

生および日本人学生などである。

留学生は、発表会に向けて、指導教員、同じ研究室の先輩留学生、日本人学生に協力してもらいながら熱心に準備を進めた。発表会に向けた準備は、作文とコンピュータの授業の中で行ったほか、日本語教育部門の4人の教員がそれぞれ分担した学生に対して、授業時間以外にも原稿チェック、発表練習などの指導を行った。

5.5.3 修了レポート集作成

スピーチ発表会で口頭発表を行った原稿をもとにレポートを作成し、修了レポート集『らいちょう』として発行した。留学生は各自の専門についてのレポートを作成したほか、それぞれの期の中表紙、寄せ書き、写真のページなどを共同で作成した。各自の能力を発揮し、話し合いを進めながら、コンピュータの授業で学んださまざまな文書の作り方などを能率良く活かし、完成度の高い文集を作り上げた。

6 成績評価

初級クラスでは、メインテキスト（『みんなの日本語』）に基づく定期試験を実施し、また、「語彙・表現」「文字・漢字」のクラスでは期末試験を実施した。中級クラスでは、メインテキスト（『J.Bridge』『日本語中級 J301』『日本語中級 J501』）に基づく定期試験を実施し、また、「聴解」「文字・漢字」のクラスではそれぞれ期末試験を実施した。口頭発表プロジェクトについても、原稿と発表会当日の発表を教員が採点し、プロジェクトの成績を出した。コース修了時に、定期試験、その他の試験、口頭発表プロジェクトの成績を総合して、コース全体の成績判定を行い、コースへの出席率も含めた成績表を作成して、受講者本人と指導教員へ通知した。

7 コース評価

日本語研修コースでは、コース改善に役立てるために、コース終了時にコースエバリュエーションのアンケートを行っている。実施前に、成績等には全く影響しないことを伝えた上で、授業の内容、テキスト、教師の教え方、コンピュータ授業、口頭発表プロジェクト、日本人学生との時間、ホームステイ・ホームビジットについて、調査を行った。それぞれの期のコース評価の結果を表4、表5に示す。なお、回答方法は、5段階で評点をつけるものと、与えられた選択肢から該当する答えを選択するものがあるが、回答結果については後者の結果のみを掲載している。また、自由意見は日本語または英語で記入させ、英語から日本語への翻訳、日本語の訂正はコーディネーターが行った。

表4 第24期コース評価

質問及び回答結果	自由意見
(コース全体) コースは役に立ったか：（5段階評点） スケジュールはどうだったか： ちょうどいい3人 日本語は上達したか： した2人、普通1人	<ul style="list-style-type: none"> ・聴解の授業がもっと多いほうがいいと思う。
(日本語の授業) 授業はどうだったか：（5段階評点） 教科書はどうだったか：（5段階評点） ハンドアウトはどうだったか：（5段階評点） 教師の教え方はどうだったか：（5段階評点）	<ul style="list-style-type: none"> ・よかったが、ふつうの日本語^{注1}をもっと勉強したかった。 ・会話の練習がもっと多いほうがいい。

<p>(テスト)</p> <p>テストはどうだったか： (5段階評点)</p> <p>テストは多かったか： 多い1人, ちょうどよい2人</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 2週間で1日全部テストをするのは多すぎる。授業の時間が少なくなる。 • テストのフィードバックが多いほうがいい。
<p>(コンピュータ授業)</p> <p>授業は役に立ったか： (5段階評点)</p> <p>テキストはどうだったか： (5段階評点)</p> <p>教え方はどうだったか： (5段階評点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • コンピュータで漢字をたくさん習った。日本語のタイピングはとても大事だ。
<p>(口頭発表プロジェクト)</p> <p>プロジェクトはたいへんだったか： ふつう3人</p> <p>プロジェクトは役に立ったか： (5段階評点)</p> <p>発表会は役に立ったか： (5段階評点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 時間をかけすぎだ。 • いい活動なので、意見はない。
<p>(見学)</p> <p>見学は楽しかったか： はい3人</p> <p>見学場所は適当だったか： はい3人</p> <p>見学の時期は適当だったか： はい3人</p>	<p>どんなところが楽しかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> • 富山の伝統文化を習った。 • 初めての場所を見た。
<p>(ホームビジット)</p> <p>ホームステイ・ホームビジットは楽しかったか： はい2人</p> <p>いいえ1人</p> <p>時期は適当だったか： はい3人</p>	<p>どんなところが楽しかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> • ゆかたを着られたし、パーティーにも行けた。 • 日本人の生活が体験できた。 <p>どんなところが楽しくなかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> • ホストファミリーはとても親切だったが、私はホームビジットは好きではない。 <p>• 1日でちょうどいい。</p>
<p>(日本事情)</p> <p>日本人と一緒に勉強するのはどうだったか：</p> <p>日本の文化を知らなければならぬと思うか： 思う3人</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ふつうの日本語^{注2}の練習はとても大事だ。 • とてもよかった。日本語を練習するのにいいチャンスだと思う。 • 日本人の学生と友だちになれてとてもよかった。 <p>どうしてそう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日本人の考え方を知り、社会の仕組みをすることで、日本での生活がしやすくなる。 • 日本人のうちへ行くときのマナーやお茶の飲み方などがわかった。

注1, 注2 いずれも「くだけた日本語」「常体を多用した日常語」のことを意味していると思われる。

表5 第25期コース評価

質問及び回答結果	自由意見
<p>(コース全体) コースは役に立ったか： (5段階評点) スケジュールはどうだったか： 忙しい5人 日本語は上達したか： した2人, 普通2人, しなかった1人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おもしろくて勉強しやすかった。 ・このコースは本当に役に立った。特に日本語をまったく知らない人にとって役に立つコースだ。
<p>(日本語の授業) 授業はどうだったか： (5段階評点) 教科書はどうだったか： (5段階評点) ハンドアウトはどうだったか： (5段階評点) 教師の教え方はどうだったか： (5段階評点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさん機会があったので、新しいことばが覚えやすくなった。 ・発音のテキストは楽しかった。先生は優しく、授業は楽しくなった。 ・会話の練習をもっとしたほうがいいです。
<p>(テスト) テストはどうだったか： (5段階評点) テストは多かったか： 多い1人, ちょうどよい4人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなテストはよかった。特にテスト後すぐにフィードバックがあったのはとてもよかった。 ・テストは難しかったが、復習に役に立った。
<p>(コンピュータ授業) 授業は役に立ったか： (5段階評点) 教材はどうだったか： (5段階評点) 教え方はどうだったか： (5段階評点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・このクラスでパワーポイントのプレゼンテーションが作れるようになったので、コンピュータの使い方が上達した。感謝している。 ・以前は日本語入力ができなかったが、今はできるようになった。
<p>(口頭発表プロジェクト) プロジェクトはたいへんだったか： たいへん3人, ふつう2人 プロジェクトは役に立ったか： (5段階評点) 発表会は役に立ったか： (5段階評点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大変だったが、役に立った。 ・プロジェクトはとても役に立った。みんなに自分の勉強したいことが伝えられた。
<p>(見学) 参加者4名 見学は楽しかったか： はい4人 見学場所は適当だったか： はい4人 見学の時期は適当だったか： はい4人</p>	<p>何が楽しかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて日本のお寺を見たからうれしかった。 ・いろいろなお寺を知ることができた。 ・日本の文化を実際に見ることができた。 ・日本の文化や興味深い場所を見ることができた。 <p>・少し日本語がわかるようになったときがちょうどいい。</p>

<p>(ホームビジット) 参加者 5 名 ホームステイ・ホームビジットは楽しかったか： はい 5 人</p> <p>時期は適当だったか： はい 5 人</p>	<p>何が楽しかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族は親切だし、面白かった。 ・すべてよかった。 ・いろいろな日本の食べ物と生活がもっとよくわかるようになった。 ・料理がおいしかった。
<p>(日本事情) 日本人と一緒に勉強するのはどうだったか：</p> <p>日本の文化を知らなければならぬと思うか： 思う 5 人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人学生と知り合えたのがよかった。授業で習った文法を実際に自由に使う機会ができた。 ・「日本事情」というクラスなので、日本の文化、習慣、生活様式などについて、より多く扱うとよい。 ・日本人学生はみんな優しくて、クラスも楽しかった。 ・いい。日本人学生と友だちになれた。たくさん日本人の生活を勉強することができた。 <p>どうしてそう思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の文化の知識を得ることによって、よりよい人間になれると思う。また、日本は学ぶべき文化を豊かにもつ国だと思う。例えば、『源氏物語』なども読んでみたい。 ・日本に住むなら、日本の習慣や日本人の考え方を尊重すべきだ。そうすることで、日本について以前よりも理解できるようになる。 ・日本の生活は面白い。 ・日本で勉強しているので、日本語と日本の文化を理解することが必要だと思う。 ・日本文化を知ると、日本人と話したり、日本を旅行したりしやすくなる。日本人や日本社会のいいところを知ることができる。日本での勉強生活のためにそれは一番重要なことだと思う。

第 24 期、第 25 期ともに、コースは役に立ったかという問いに、全員が 5 段階評点の 5 と回答し、また、自己の日本語の上達度についての問いにも、半数が「上達した」と答えており、これらの点から受講者のコースに対する満足度は高かったということがうかがえる。コースのスケジュールについては、第 24 期が全員「ちょうどよい」、第 25 期が全員「忙しい」と答え、対照的な結果となっているが、これは受講者の日本語レベルによるクラス分けが両者で異なっており、よりきめ細かい指導ができた第 24 期のほうがほどよい進捗であるにとらえられたのではないだろうか。

日本語の授業についての問いでは、ほとんどの項目に対して 5 段階評点で平均 4.7 以上の高い評価が得られている。また、テストについても自由記述のコメントを見ると、学習内容の復習あるいは自己の定着度を測るいい機会としてとらえられていることがわかる。ただ、「テストのせいで授業の時間が少

なくなる」という内容のコメントをしている学生もおり、効率的なテストの実施についても検討が必要である。

コンピュータの授業や口頭発表プロジェクトについても、概ね高い評価を得ている。コンピュータの授業に関しては、日本語入力やコンピュータのスキルについて言及したコメントのほか、「コンピュータを使用する中でたくさんの漢字を学んだ」というコメントも見られた。口頭発表プロジェクトに関しては、「いい活動である」「役に立った」というプロジェクトそのものを評価するコメントが得られた一方で、「時間をかけすぎだ」というコメントも見られた。プロジェクトのひとつひとつのステップをこなしていくのにかかる時間は学生によっても個人差があり、無理のない範囲でスケジュールを組んで実施しているが、逆にスムーズに準備が進んだ学生がいる場合にはさらに力を伸ばすような課題を追加するなど、学生に飽きを感じさせない工夫が必要であろう。

見学、ホームステイ・ホームビジット、日本事情についても概ね良い評価が得られた。見学やホームビジットは、日本の文化や習慣を直接体験できる場として、また日本事情の授業は、日本語のクラスで学んだ日本語を実際に運用できる場として、とらえられているようである。

8 おわりに

大学院入学前予備教育・日本語研修コースは、2012年3月に第25期生を送り出し、これまでの修了生は、文部科学省からの配置学生、学内措置による受講者を合わせて166人となった。

2009年度まで研修コース単独の授業として開講していた初級クラスの午後の授業科目のうち、3つの科目の内容を改めた上で、日本語課外補講との合同科目として開講するようになってから2年が経過した。これによって、日本語課外補講の受講者でより多くの科目を受講したいと考える学生の希望にこたえられるようになったことは言うまでもないが、日本語研修コースの受講者にとっても、受講人数が増えたことによってコミュニケーション重視の練習の幅が広がり、授業が活発化するという効果が見られる。しかし、人数が増加することによってマイナスの効果が生じているのも事実である。7節でも触れたように、テストの実施に時間がかかり、授業時間が少なくなってしまうととらえた学生もいることから、コースで実施しているさまざまな活動を効率よく進められるような工夫が必要だろう。

中級クラスについては、第24期のように該当する受講者がいない場合もあり、また、日本語課外補講との合同化を進めて以来生じている問題に依然としてうまく対応できていないという現状もある。今後、開講するコマ数や設定するレベルなど、いろいろな面での見直しが必要となってくると思われるが、その際には留学生センターの他の日本語プログラムとも連携をとりながら、改善の道を探っていかなければならない。特に、留学生センターが開講する日本語プログラムには初級、中級、上級の3レベルが設定されているが、現状では初級から中級、中級から上級と学期を追うごとに次のレベルへ移行している体制にはなっていない。限られた授業コマ数の中できめ細かいレベル設定をするのは難しい面もあるが、受講希望者の日本語力やニーズ、大学の留学生受け入れポリシーなどもふまえた上で、よりよいプログラム、授業科目を提供できるように努めていきたい。

また、5節で述べたように、第25期は、ある受講者がコース途中で交通事故に遭い、約2週間にわたって入院生活を余儀なくされた。退院後もしばらくの間は週に1～2回通院しなければならず、入院中に抜けた授業内容の特別補習をする一方で、通院に付き添うなどの手当が必要となった。これについては、日本語教育部門の4人の教員が手分けをして対応し、この学生は事故後約1ヶ月でほぼ通常通りの授業に復帰し、途中で挫折することなくコースを終えることができた。この学生自身の精神力の強さや前向きに頑張ろうとする意欲による部分も大きかったであろうが、専任教員間の連携や非常勤講師の理解・協力があってこそ、このような結果にたどりつけたのであり、今後のコース運営において、何か問題が生じた際に対応を考える上での参考としたい。